

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第161号(2020. 8. 1)
事務局 川西地区自主防災会

建築会社としての安全・防災対策

株式会社 菅組
代表取締役 菅 徹夫

株式会社菅組は 1909 年（明治 42 年）創業の建築集団です。創業者の菅米吉は宮大工の棟梁として、この年に香川県知事からの鑑札（大工職としての証）をいただいています。社寺建築を皮切りに、昭和 33 年には初めての鉄筋コンクリート造の建築を手がけました。以来、鉄筋コンクリートや鉄骨造の各種建築はもちろんのこと、創業以来続く木造建築も社寺や住宅を中心に手がけさせていただいています。



01：大工職鑑札。
明治 42 年 10 月 5 日付けで香川県より大工として認められました。この日をもって創業としています。

宮大工をはじめ直営の自社大工を 20 名程度正社員として雇用させてもらっているのも当社の大きな特徴だと思います。中には 3 代、4 代続けて菅組の大工という家系も 4 家ほどあります。

また設計施工の比率が高いのも当社の特徴です。設計部には現在 15 名のスタッフが在籍しており、設計施工の割合は全体の 6 割ほどを占めています。リノベーション工事が多いのも当社の特徴です。住宅、一般建築を問わず「使い続ける品質」と「見守り続ける品質」のスローガンのもと、小さな修繕工事から大規模リノベーションまで幅広く対応させていただきます。

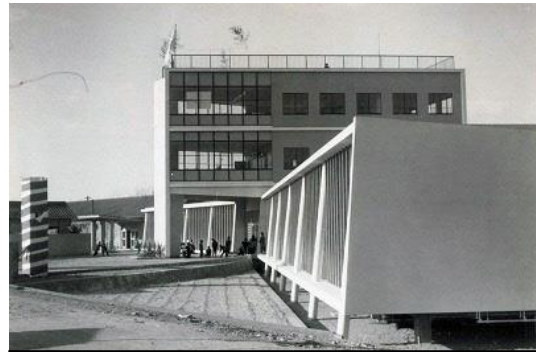


02：お寺のスケッチ。
弘化 5 年（1848 年）と書かれたお寺の墨絵が見つかっています。菅廣治（創業者 菅米吉の祖父）の署名が添えられています。この頃から宮大工の仕事をしていたことがわかります。

経営の理念と使命として「建設業を通じ、長年培ってきた技術と基本姿勢である誠実さをもって、その完成より保守に至るまで、一連の建設業務に心血を注ぎ、顧客第一主義の精神を貫き、価値ある建造物を提供することによって、地域社会に貢献する」を掲げています。また地球規模で考えると防災といえるのかもしれませんが、気候変動の問題は避けて通れない現代の重要課題となっています。当社では

2016年に菅組環境方針を策定し8項目の重点目標を掲げました。

1. 持続可能な原材料
2. 地産地消
3. 自然素材
4. 地域の生物多様性の保全
5. 環境共生建築
6. 伝統技術と文化の継承
7. 全社員役員の実践
8. 地域との連携



03：初期の鉄筋コンクリート造の建築。
(三豊病院 第一期工事)

さらに2019年にはSDGsの枠組みを導入し、企業のこれからの方向性をさらに明確にして行こうと考えています。

当社の具体的な安全対策や防災対策としては、2009年に本社周辺で行った「鎮守の森 PROJECT」はそれに該当するかもしれません。世界的な植物学者である宮脇昭先生の発案による宮脇方式と呼ばれる植樹です。それはシイ・タブ・カシを中心とする潜在自然植生（本来その地に生えるべき樹種）を混植、密植で植樹するというものです。菅組では当時55種類以上のポット苗を5,500本植樹しました。この苗木は成長すると、ふるさとの森となり津波や高潮、強風から建物を守る防災林としての役割も果たします。東北の震災の後にも「緑の防潮堤」として各所で採用されています。菅組本社の「鎮守の森」も植樹から11年が経ってちょっとした森の様相を呈してきました。近いうちに防災林としての機能も担ってくれるものと期待しています。



04：2009年、創業100周年記念事業で行った「鎮守の森 PROJECT」（宮脇方式による植樹）。



05：植えたばかりの苗木。

業界関係で言いますと、全国木造建設事業協会が香川県と「災害時における被災住宅の応急修理に関する協定」を締結しておりますが、弊社は県内の主幹事会社と

して応急仮設木造住宅建設の任務に当たるという役割を担っています。

その他、本社事務所では毎年一回の消化・避難訓練の実施、緊急時連絡網の確立、AED の設置などを行っています。

また工事作業所においては、当たり前のことではありますが緊急時連絡票の掲示、安全通路の整備による避難経路の確保などに勤めております。さらに最近では異常気象の影響などにより、台風以外の時にも台風並みの突風が吹いたり、尋常ではない大雨が降ったりすることが頻繁に起こるようになりました。強風を想定した飛散防止対策の徹底や大雨対策などを日常的に行えるよう呼びかけています。



06：本体外観。
両サイドは鎮守の森 PROJECT で植えた苗木たち。



07：本社内部アトリウム

事務局だより

令和2年 8月

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

今月号の原稿を担当していただきました「株式会社 菅組」様、生原稿を読ましていただくと、会社の歴史観、更に感じることは、

- ①自然を愛し、そこから誕生する木々を建築の主として大切に使っている。
 - ②日本建築を永年にわたって積み上げてきた大工さん、とりわけ宮大工さんを多く擁立し、伝統伝承を後世に繋いでいく会社経営の素晴しさ。何かと合理性を前面にだしての企業経営が多い中、いぶし銀のごとくであります。
 - ③最後は社長 菅 徹夫様の心づかいと厳しさの中の優しさが、建築物の隅々まで行きわたっているような気がしてなりません。
- 原稿を読ましていただいた感想でございます。

(文責 岩崎正朔)

避難所における新型コロナウイルスの感染症対策訓練

1. 避難所における新型コロナウイルスの感染症対策を折り込んだ訓練を実施しました。とりあえず川西地区自主防災会のメンバー25人と、避難者役として地区の自治会役員等10名参加し、次の内容において行なった。

1. と き 令和2年7月11日(土) 10:30~11:40
2. ところ 丸亀市立城辰小学校体育館

2. 訓練スケジュール

- (1) 避難所設営訓練開始…10:30~10:50
 - ①居住作成(パーティション)グループ
 - ②受付(一般・要配慮者・ペット)作成
 - ③医療・医務室(パーティション)作成
 - ④電源供給(配線含)、端末設置
 - ⑤トイレ周り対策
 - ⑥水周り対策
 - ⑦備蓄食料・食器



(2) 避難所運営訓練の開始…11:00～11:20

- ①一般避難者の受付
- ②要配慮避難者の受付
- ③ペット同行避難者の受付
- ④コロナウイルス感染防止対策点検
- ⑤熱中症防止対策点検

(3) 商用電源「断」対応訓練…11:20～11:30

大型発電機によるトイレ周り（浄化槽）の電源供給

3. 訓練総括 11:30～11:40

- (1) 丸亀市長あいさつ
- (2) 香川県危機管理課講評
- (3) 主催者あいさつ

◎訓練をふりかえって

3密対策、とくにダンボールパーテーションによるソーシャルディスタンス（隣との間隔設定）が不十分であった。大型発電機によって小学校のトイレ環境が維持できる証しがとれたのは大きな収穫であった。

編集後記

8月の防災減災の輪は、株式会社 菅組 代表取締役 菅 徹夫様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。